

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	プレジオ永和アジア新築マンション	階数	地上15F
建設地	大阪府東大阪市高井田元町	構造	RC造
用途地域	第一種住居地域、近隣商業地域、準	平均居住人員	150人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年4月 予定	評価の実施日	2023年9月20日
敷地面積	1,259 m <sup>2</sup>	作成者	栗原寿樹矢
建築面積	557 m <sup>2</sup>	確認日	2023年10月2日
延床面積	7,434 m <sup>2</sup>	確認者	定森淳一



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 0.9** ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 2.7**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.1

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.9

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.1

**LR のスコア = 3.1**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.1

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.2

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

3 設計上の配慮事項		
総合	室内環境やサービス性能に配慮し、環境品質の向上に努めた	その他 特になし
Q1 室内環境	開口部遮音性能を十分に確保し、音環境の向上に努めた	Q3 室外環境(敷地内) 敷地内緑化に努め、建物利用者が自然に親しめる空間を計画
LR1 エネルギー	BEI=0.96	LR3 敷地外環境 光害対策に十分に配慮した計画
Q2 サービス性能	住居部の天井高さを十分に確保し、広さ感に配慮している。	
LR2 資源・マテリアル	GWPが低い発泡断熱材を使用し、汚染物質含有材料の使用回避を行った	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

大阪府の重点評価(結果)

【建物概要】	建物名称	プレジオ永和アジア新築マンション計画						
	建設地	大阪府東大阪市高井田元町						
	用途/区分	集合住宅						
【評価結果】	CASBEE 総合評価						B-	
①	CO2削減						4	
②	みどり・ヒート アイランド対策						3	
③	建物の断熱性						3	
④	エネルギー削減						3	
⑤	自然エネルギー直接利用						—	
	再生可能エネルギー 利用施設の導入状況	太陽光発電	—	風力	—	地熱	—	—
		太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—	—
	エネルギー消費量の報告						対象外	
【評価項目】								
	項目	評価内容					スコア	評価
①	CO2削減	CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価					3.5	4
②	みどり・ヒートアイランド対策							
	生物環境の保全と創出	CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価					2.0	3
	敷地内温熱環境の向上	CASBEE「Q3-3.2」のスコアによる評価					3.0	
	温熱環境悪化の改善	CASBEE「LR3-2.2」のスコアによる評価					3.0	
③	建物外皮の熱負荷抑制	CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価					3.0	3
④	設備システムの高効率化	CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価					3.4	3
⑤	自然エネルギー利用	CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価					2.0	—
	エネルギー消費の実態把握に努める	エネルギー消費量の実績を3年間報告する。					報告する 報告しない	-
その他								
		技術の名称				考慮事項		
	先進的技術の導入							
	特に配慮した事項	特になし						